

香川高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境アセスメント
科目基礎情報						
科目番号	200434		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建設環境工学科 (2018年度以前入学者)		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 住友 恒ら, 新版 環境工学 (理工図書)、配布テキスト 参考書: 原科幸彦著, 環境アセスメント[改訂版] 放送大学教育振興会 (NHK 出版) 香川県生活環境部環境局 環境・土地政策課発行, 香川県の環境アセスメント など					
担当教員	多川 正					
到達目標						
建設分野における環境アセスメント (歴史, 目的, 手法, 事例) に関する基礎事項を習得し, 建設技術者として必要な環境アセスメントの評価方法を学び, 実務において応用可能な基礎知識を習得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	環境影響評価の目的および制度の誕生した背景を理解している。		環境影響評価の目的について理解している。		環境影響評価の目的について説明できない。	
評価項目2	環境影響評価の現状および改正された事例について理解している。		環境影響評価の現状について理解している。		環境影響評価の現状について説明できない。	
評価項目3	環境影響指針および調査・予測・評価の流れについて理解している。		環境影響指針について理解している。		環境影響指針について説明できない。	
評価項目4	リスクアセスメントおよび事例について理解している。		リスクアセスメントについて理解している。		リスクアセスメントについて説明できない。	
評価項目5	ライフサイクルアセスメントについて図に描くことができ、理解している。		ライフサイクルアセスメントについて理解している。		ライフサイクルアセスメントについて説明できない。	
評価項目6	ミティゲーションについて事例を説明でき、理解している。		ミティゲーションについて理解している。		ミティゲーションについて説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-2						
教育方法等						
概要	この科目は企業で環境浄化設備の計画や技術を担当していた教員が, その経験を活かし, 環境アセスメントの手続きや審議内容, 測定技術などの最新の方法について講義形式で授業を行うものである。建設分野における環境アセスメント (歴史, 目的, 手法, 事例) に関する基礎事項を習得し, 建設技術者として必要な環境アセスメントの評価方法を学び, 実務において応用可能な基礎知識を習得する。					
授業の進め方・方法	授業内容の理解を深めるために, テキストや参考資料を配付して教科書の内容を補足説明する。講義主体であるが, 適宜ビデオ教材や事例調査を行い, 環境影響評価の理解を深める。また, 講義の中に適宜, 現在の技術・環境問題を取り上げ, 発表, 相互評価をする時間を設け, 環境問題に関する建設技術者のあり方を議論する。					
注意点	引用・参考図書を配布テキストに併記してありますので, 自主的に学習に取り組む, 自学自習の姿勢を希望します。また, 授業に関連する参考書, 図書, DVD等の貸し出しを随時行っています。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス			
		2週	環境アセスメントとは		環境アセスメントの目的について理解している。	
		3週	環境倫理とアセスメントの必要性		環境アセスメントがそなえなければならない条件を説明できる。	
		4週	持続可能な発展		環境倫理とアセスメントとの関連について説明できる。	
		5週	環境影響評価法 (1) 国のアセスメントの制度		環境アセスメントの手続きについて説明できる。	
		6週	環境影響評価法 (1) 国のアセスメントの制度		環境アセスメントの手続きについて説明できる。	
		7週	環境影響評価法 (2) 地方自治体のアセスメントの制度		自治体の環境アセスメントの手続きについて説明できる。	
		8週	環境影響評価法 (3) 改正環境アセスメント		環境影響評価法の改正点 (配慮書手続、報告書手続など) について説明できる。	
	2ndQ	9週	環境影響評価法 (4) 改正環境アセスメント		環境影響評価法の改正点 (配慮書手続、報告書手続など) について説明できる。	
		10週	環境影響評価の事例調査		事例調査に基づき, アセスメントの手続きが図示、説明できる。	
		11週	環境影響評価項目		環境影響評価項目について, 内容を説明できる。	
		12週	調査・予測 (1)		調査, 予測の手順, 手法について説明できる。	
		13週	調査・予測 (2)		調査, 予測の手順, 手法について説明できる。	
		14週	スクリーニング, スコーピング		スクリーニング, スコーピングの制度について説明できる。	
		15週	前期末試験			
		16週	試験返却・解説			
後期	3rdQ	1週	個別評価・総合評価 (1)		代替案, 総合評価の順位付けについて説明できる。	
		2週	個別評価・総合評価 (2)		代替案, 総合評価の順位付けについて説明できる。	
		3週	ミティゲーション (1)		ミティゲーションについて, 流れを説明できる。	
		4週	ミティゲーション (2)		ミティゲーションについて, 流れを説明できる。	

		5週	コミュニケーションの方法（１）	文書形式，会議形式のコミュニケーションの特徴を説明できる。
		6週	コミュニケーションの方法（２）	文書形式，会議形式のコミュニケーションの特徴を説明できる。
		7週	住民参加（１）	住民へのアカウンタビリティ，積極的な住民参加の事例について説明できる。
		8週	住民参加（２）	住民へのアカウンタビリティ，積極的な住民参加の事例について説明できる。
	4thQ	9週	住民参加（３）	住民へのアカウンタビリティ，積極的な住民参加の事例について説明できる。
		10週	報告書手続き	工事・供用後のアセスメントの報告書の手続きについて説明できる。
		11週	リスクアセスメント	リスクアセスメントについて説明できる。
		12週	諸外国における環境アセスメント	諸外国の環境アセスメントの現状について説明できる。
		13週	途上国における環境アセスメント	途上国の環境アセスメントの制度整備の現状について説明できる。
		14週	ライフサイクルアセスメント	ライフサイクルアセスメントについて説明できる。
		15週	後期末試験	
		16週	試験返却・解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
評価項目1～2	40	0	0	0	0	0	40
評価項目3～4	40	0	0	0	0	0	40
評価項目5～6	20	0	0	0	0	0	20